

フランス語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

2023（令和5）年度共通テストの「フランス語」は、2020年まで実施されたセンター試験の枠組みを受け継いだ2021年からの「共通テスト」を踏襲し、『筆記』試験を課し、リスニングテストは実施しないという方針の下、作成、実施された。「フランス語」の追・再試験の実施は、共通テストになって初めてだった。（2021（令和3）年度の第1回共通テストでの全科目2回実施を除く。）

感染症の流行、異常気象など予期せぬ事態に備え、受験者が多くない「フランス語」のためにも、追・再試験を作問して、実施して下さったことに感謝する。追・再試験の性格上、本試験よりは若干難しい部分もあったが、総じて同レベルの問題であったことに、問題作成委員の先生方のご苦労に対し、心より感謝申し上げる。

出題形式については、冒頭で述べたように、本試験と同様であった。具体的には、発音、書き換え、文法、対話文、整序作文、情報収集、読解という内容で、それぞれの基礎力、応用力を見るのに適したバランスの良い問題であった。特別な海外生活体験を持たず、学校の第一外国語としての時間数の授業でのみフランス語を学んできた生徒たちが十分に対応できた問題であったと言える。また、多面的にフランス語に慣れ親しんできた生徒が、その体験、語彙力を生かして取り組みば解答を導き出せる良問であったと思う。

全問にわたって、基本的な問題、例外を扱った問題、応用力を必要とする問題、読解力を必要とする問題がバランス良く出され、決して易しすぎず、難しすぎず、フランス語を学習している高校生に対し素直に学習成果を問う良い問題で、彼らの学習成果を正當に評価できるものだった。資料の読み取り及び長文読解などは、解答を導き出すための内容ではなく、生活や研究に利用したくなる内容であった。第7問Aの問題では、生活者には欠かせないごみの種別収集という内容が扱われた。また、Bではオンライン旅行についての案内が話題で、高校時代の丸々三年間をコロナ禍で過ごしている受験者にとっても、時代に即したテーマだった。第8問は、フランス・ベルギー間でのフライドポテトの起源を扱った文章だった。こういった文章を選んだ作問委員の先生方の教育に対する熱意に敬意を表するものである。本試験と比べて内容が難化している印象は否めないが、これも、センター試験時代の追・再試験が多少本試験よりも難しくなる傾向が感じられたのと同様で、やはり必要な措置と言えよう。

報告の方針

今回の報告は、上記の点を踏まえ、次の3点を分析の中心とする。

- (1) 受験者の実力差を判定できる試験となっていたかどうか。知識があり、深く考えた結果、不正解になってしまうことがないか、ということを中心に検討したい。少人数の集団が対象であるだけに、その点に関しては大人数の科目以上に要求が強いと考える。
- (2) 特定な要素に偏らない、総合的な学力を問う問題であったかどうか。
- (3) 高等学校の学習範囲から逸脱しない問題であったか。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲など

フランス語を高等学校から選択学習する高校生の学習環境を考慮した問題作成を希望している。主な形式と内容は共に本試験と同様昨年度の共通テストを踏襲したものであった。

第1問 フランス語におけるつづり字と発音間の規則性を理解しているかを問う問題である。今回も基本ルールを問う問題に限られ、こうした傾向が続くことを望む。

問1 語中の *-t-* あるいは *-th-* の発音を問う問題。 *-ti-* のつづりに二種類の発音があることに留意すれば解ける。④は英単語に類似のものがあるのでそれとの識別が必要。

問2 *-cc-* の発音を問う問題。次に来る文字によって発音が変わるが、そうしたルールを知らなくとも、いずれも基本単語なので難しくない。特に④vaccinは昨今、目にするが増えたか。

問3 *-un-* の発音を問う問題。音節の区切り方を間違えなければ正解に行き着く。

問4 語末の *t* の発音を問う問題。発音ゼロが原則であるので、例外的に発音するものを特に覚えておく必要性の喚起問題と言えよう。

問5 リエゾンの有無を問う問題。①は、有音の *h* で始まる単語は限られるので、受験者は当然知っているべきものであり、histoireはこれに該当しないのでリエゾンを行う。②、③は必ずリエゾンし、④は、倒置された語と次の語との間ではリエゾン禁止であることも基本ルールであるので、④を正解と判断することは難しくない。

第2問 発音に加えて、形容詞の変化、派生語の知識、動詞の活用などを扱う単語レベルでの総合的な文法問題である。

問1 形容詞から副詞を作る問題。例外的な作り方を覚えていれば、③ではなく②が正解と分かる。

問2 動詞から人を表す名詞を作る問題。女性形であることを見落とすと④を選んでしまうが、①～③のいずれかを判断することには確かな知識が必要となり、やや難しい。

問3 名詞から動詞を作る問題。satisfaireは基本語と言えるので、難しくない。

問4 過去分詞形から直説法現在形を作る問題。これもpeindreは基本語と言えるので難しくないが、注意を要する活用形である。

問5 形容詞の女性形を問う問題。男性形別形を持つ形容詞の1つとして基本語であるので、難しくない。

第3問 文中の空所に適語を入れる形式で、文法や語法の理解度を測る問題である。

問1 接続詞句を完成させる問題。①と③は後続の節で接続法が要求されるので除外され、②は内容的に不適。

問2 副詞(句)を問う問題。①は「今後は」という意味で使う例もあることを知らないと④との間で迷う可能性も考えられる。過去との対比で「今では」という意味が普通であると思われるので、単純未来形の文はやや難しい。

問3 間接疑問文の疑問詞(句)を問う問題。文意が分かれば正解に行き着くことは難しくないが、direとquoiの親和性を考えると③、④を誤答することもありうる。良問である。

問4 形容詞の性数一致を問う問題。基本知識があれば解ける問題であるが、最終的にはoiseauの性が分かるかどうかの問題とも言える。基本に立ち返る傾向は今後も続いてほしい。

問5 *n'*のみでpasが無いことに注目すれば、まず②と④が排除され、③はde+無冠詞名詞が後に続くことを考えればやはり排除されて①に行き着く。

問6 faireの使役用法であることに気付けば簡単な問題であるが、faire (la) connaissanceから

の連想で①を, faire A B「AをBにする」からの連想で③を誤答する可能性もありうることを考えると, 見かけ以上に難しい問題である。良問である。

問7 所有代名詞の用法を問う問題。定冠詞が付くことは基本知識であるので, ③に行き着くことは難しくない。こうした問題は基本の大切さの喚起問題と言えよう。

第4問 引き続き, 文中の空所に適語を入れる第3問と同じ形式。語彙の理解度を測る問題に特化している。

問1 名詞の意味を問う問題。②と④は意味連関からの誤答, ③はmodeがここでは女性形であることを見落としてmode de vieなどを連想しての誤答もありうることを考えると少々難しい。

問2 à la hauteur de～の熟語に関する問題。具体的な「～の高さに」という意味ではなく, 抽象的な「～に見合う」という意味が問われている。この表現への深い理解がないと, 他の選択肢はふさわしくないという判断を持ちにくく, 難しい。

問3 動詞の意味を問う問題。名詞と関連付けながらの学習の必要性の喚起問題と言えよう。

問4 C'est l'heure de～によって事態の切迫性が分かるので, ④を選択することは難しくない。選択肢はいずれも基本的なものである。

問5 動詞の意味を問う問題。問3と同様, 名詞との連関も問われているが, saisirの多義性も問われているので, 一段階難しい問題である。

問6 熟語の意味を問う問題。熟語を構成する名詞はいずれも基本単語であり, 熟語自体も知っておくべきものである。意味だけでなく, 語法の習得の必要性も喚起する問題と言えよう。

第5問 対話文を完成させる問題であり, 4技能の総合的な育成が求められている中で, 会話体の出題にもますます工夫がされていることと推察する。

問1 最後の台詞から判断して, 「少し熱がある」という正解を選ぶ。

問2 「でも反対に, それこそがいい」という最後の台詞から判断して, 通常はマイナスと見なされる内容を選ぶ。まぎらわしい選択肢は無く, 正確な読み取りが出来れば難しくない。

問3 最後の台詞に合う疑問文を選んでいけば正解に行き着く。essayer un restaurantという用法は少々難か。

問4 ①は, venir de～が示す「近接過去」の「近さ」をどう捉えるか, また最後の台詞のdepuis quelque tempsが示す「しばらく前から」の「しばらく」をどう捉えるかによっては, 必ずしも排除されないのではないか。(最近開店したが, その後, 少し前から客の入りがよくない, という可能性も考えられる) ④は, 現下の新型コロナ感染状況によって生まれた, 「混雑のない店は安心」という新しい価値観からすれば, やはり必ずしも排除されないと言える。とはいえ, 「最も適当なもの」が③であることは否定されない。入念に工夫された問題である。

問5 最後の台詞が複合過去形になっていることに留意する必要がある。つまり, 今は不安は無くなったという理解が出来ないと, ①, ③, ④のいずれも選択の可能性が生まれてくることになる。フランス語力を測れる良問である。

第6問 整序作文。和文仏訳で, 自らの考えを述べる自由作文の前段階として, 文法や構文を中心とした作文力を問う問題である。並べ替えの語(句)の単位は6個, 問うのは4番目の語(句)というルールで統一されている。日本語とフランス語の間の発想の違いが問題のポイントになると難易度が上がる。文頭と最後がフランス語で示されることで, 出題ポイントがはっきりするこの形式の継続を望む。

問1 日本語との対応に留意して単語を並べれば難しくない。

問2 avertirが直接目的語を取ることを思い出す必要がある。「～に知らせる」という日本語にとられると間接目的語にしかねない。同様の動詞にprévenir, informer, (意味のつながりを

無視すれば) saluer, remercierなどがあり注意を要する。

問3 「～しに来る」がvenir+不定詞であることが分かれば難しくない。

問4 代名詞の共存に関する問題。語順についての正確な知識が問われる良問である。

問5 形容詞の同等比較の用法に関する問題。指示代名詞の用法についても基本的な知識があれば正解に行き着く。

第7問 情報処理能力を問う問題で、与えられた情報から判断し発信できるかが問われている。追・再試験ではA「ごみの種別収集日」、B「オンライン旅行」が主題に取り上げられていて、本試験と同様話題としては受験者にとって取り組みやすいものであった。

A問1 会話から「今日」が木曜日と分かり、種別の収集曜日表からbouteillesが土曜日であることから①が正解と分かる。

問2 canapéがgros objetsであることから、第一、第三木曜日が収集日となる。「今日」は7日なので、次回の収集日は来週17日。収集場所はdevant votre maison ou votre immeubleなので、④が正解と分かる。

問3 ①は受付時間が9hからなので不適當。②はdictionnaireを捨てられるのは木曜日であり、11月12日は土曜日なので不適當。③は、ごみごとに券を貼るのはルールに合致。④は落ち葉が家庭ゴミに相当し、11月4日が金曜日なので正解と分かる。⑤本来プラスチックは水曜日に捨てられるが、11月23日は祝日なので収集されない。⑥は券がスーパーで販売されているので不適當。いずれもカレンダーと収集ルールとの両方の情報をきちんと考慮する必要があり、良問である。

B問1 Paulが参加可能な木曜日に実施される旅行はなく、土曜日は8時であればGrande Murailleが可能だが、彼が空いているのは午後なので、これにも参加できない。他の人物に関しても、曜日に注目すれば正解に行き着くことが出来るので、難しくない。

問2 week-endに実施されることから、**a**がla Chineと判明するが、開始時間が早いので行き先からは排除される。次にla plus chèreであることから排除されるのはl'Espaceと分かる。残る二択のうち、時間が少し長すぎるとして排除されるのはLouvreなので、正解は④と分かる。

問3 ①は案内に「子供も大人も楽しめる」とあるので不適當。②は案内のnormalement ferméesと選択肢の記述généralement interditsが同じ内容であることが分かれば正解と判断可能。③は実施時間が不適當。④は記念写真の受け取りが旅行「後」であることに注意すれば不適當と分かる。いずれも落ち着いて読み取れば難しくない。

問4 「旅行代金がいちばん安くなる」という表現にあいまいさが残る。すなわち、割引された結果の代金を比較するのか(素直に設問を読めばこちらと分かるが)、割引金額の合計を比較するのかが分かりにくい(安く「なる」、という表現が定価からの変化を感じさせるためか。いちばん安い人、という表現だと割引された結果で比較すれば良いと読める)。後者だと①と②がそれぞれ4€で同額なので、前者だと分かり、②を選択することになる。こうしたあいまいさが生じる原因は、料金及び割引の設定にもあるように思われる。すなわち、通常、割引とは、定価料金から、様々な条件に応じて減額されるものと考えられるが、そうした常識からすると、「午前割」と「平日割」が分かりにくい。午前に実施されるのはsavaneとChineであるが、両者とも時間帯は午前のみである。もしも午後の時間帯の選択肢もあるのであれば、午前を選択した参加者が割引されるのは理解できる。ところが、一択しかないのであれば、最初からTarifの設定を変えれば良いのでは、という疑問が浮かぶ。「平日割」も同様である。いろいろと長文を連ねたが、案内と割引条件の両方の情報

から判断させるという題意は大変興味深く、問題作成のご苦労は大変なものがあると想像でき、頭が下がる思いであり、今後も受験者に親しみやすい題材での出題をお願いする次第である。

第8問 文意を捉えられているかの理解レベルを細かく測れる長文読解問題である。追・再試験はフライドポテトを主題としたエッセイである。身近な素材であり、フランスとベルギーの対比も興味深い。

問1 空欄の直後に「:」以下の補足が示されているので、難しくない。

問2 読み取るべき部分は第一段落に限定されるので、それほど時間を要することはなく、良問である。

問3 選択肢に使われている4つの動詞の意味をそれぞれきちんと理解できれば、正解に行き着く。

問4 ここでも選択肢それぞれの意味が区別できれば、まぎらわしいものは含まれていないので難しくない。

問5 次の文を読み取ることで、特にalors queに着目すれば、両国民の習慣の違いが明らかになる。

問6 voir le jour「日の目を見る＝生まれる」という表現の理解が問われる問題。その上で、同じ内容の別様の表現の理解が問われる。少々難しいが、長文では反復を避けるために様々な言い換えが行われるのが普通なので、改めてその習熟の必要性を喚起する問題と言えよう。また、queから始まる接続法の独立節は難度は高いが、選択肢の中に適当な解釈を見付けることを通して学習の機会になっている良問であった。

問7 この選択肢も「言い換え」の一例であるが、難しい語彙、表現は含まれていないので、いずれもじっくり読み取れば正解に行き着く。⑥は数値表現を巧みに織り交ぜて、正確な読み取りを要求する選択肢。

問8 文章全体の内容把握のために必要な問題と言えよう。①と④は一方の国にしか言及していないので、文章全体の趣旨に合致しない。

3 結 び

前文でも述べたが、全体的に基礎的な学力が的確に評価され、受験者の実力が適正に測られた出題であった。今後もこのような良問が出題される事を期待する。

報告書(本試験)の「結び」でも述べたが、現在、「英語」が、どの分野においても世界の共通語になりつつあるのは、事実である。大学入学後、研究を続けるために「英語」が必要なことは多い。しかし、高等学校で「フランス語」を履修している生徒は、必ず「英語」も履修している。受験レベルではないとしても彼らは、「英語」を同時に学習している。一つの外国語を集中的に学習するより、同系列の外国語を同時に学ぶ方が、外国語の学習において有益なことは、現場では、よく知られていることである。受験後、研究のために「英語」を本格的に再開したとしても彼らにそれほどの苦労はないであろう。かえって、多面的な語彙力により、物事への理解が深まるかもしれない。あえて、多様性を求めて「フランス語」を選択した生徒を財政的な面から、あるいは非英語選択者という観点からのみで排除せず、「フランス語」受験で希望の大学へ受験できるよう配慮していただきたい。

共通テストは、センター試験時代から、高等学校教科担当教員の意見・評価をこのように述べる機会を与えていただき、それを踏まえて問題作成部会の見解が表明される試験である。この点で、共通テストは他に例を見ない試験と言える。こうしたことは、大学の個別試験ではないことであり、

改めて共通テストの意義の大きさを指摘しておきたい。報告書(本試験)の結びでも述べたように、これまでのセンター試験の知見を踏まえて作成される共通テストは、第一義的には学習者である高校生にとっての目標であることは言うまでもないが、同時に、高等学校の教員にとっても、指導上の有益かつ信頼のおける目標となっている。

そして、受験者数が少ないにも関わらず、追・再試験を提供してくださっている大学入試センターに感謝する。「教育」において功利主義が優先されないことを強く望む。日本の教育がグローバル化、多様性を重んじるのであれば、受験者にとっては、その選択肢が多い方が良いと思う。「外国語」についても「英語」に限ることなく、現在センターで実施されている「複数の外国語テスト」が続けられることを希望する。「外国語」教育こそが、多様性を認め互いに尊重し合う目に見えるあゆみであるべきで、高等教育を目指す若者たちがその節目に出会う生身の制度として、「複数の外国語テスト」が行われ続けてほしい。

高等学校の現場からの希望を繰り返し申し上げるならば、この共通テストを多くの大学に入学試験の一方法として活用していただきたいということである。ひとつには、「フランス語」を入試科目から外してしまった、または外す計画をされている大学に、いまひとつには、現在、外国語としては「英語」のみを入試科目としておられる大学に、共通テストの「フランス語」の活用をお願いするものである。今後も引き続き、「フランス語」の共通テストが存続することを切に願う次第である。